

2025年度 目白大学短期大学部

入学式 式辞

新入生のみなさん、そして、保護者のみなさま、満開の桜の下、滞りなく入学許可を宣言いたしました。まことにお慶び申し上げます。

目白学園は開学102年、短期大学部も62年目となる、多くの優秀な卒業生を輩出した伝統ある学び舎です。

建学の精神は、主人公の「主」、師弟の「師」、「親」と書いて「主・師・親」です。お釈迦様の、人々に接する際の「守り、導き、慈愛」する三つの徳のひとつであると言われています。「育てて送り出す」を教育の理念とし、短期大学部では、そのために必要な「3つの力」を卒業までに身につけて欲しいと教育を行っています。一つ目は「学び続ける力」、二つ目は「実践する力」、三つ目は「社会に貢献する力」です。

みなさんは、高校までの観点別評価によるはじめての入学生です。

観点別評価の一つ目は「知識と技能」。これは3つの力の「学び続ける力」にあたります。二つ目の「思考力・判断力・表現力」は、3つの力の「実践する力」にあたります。そして、大事なのは、三つ目の観点である「学びに向かう力」「主体的に学習に取り組む態度」です。そこには、このように書かれています。「どのように世界社会と関わり、よりよい人生を送る」のか「人間性など」と。つまり、みなさんの「学びに対する姿勢、モチベーション」が求められていました。

大学は、みなさんに学ぶためのチャンスを与える場です。

現在では98%以上が進学する高校までと大きく違うのは、「何かを求めて、それを学ぶために入学した」ということです。ですから、高校までは習うという字を書いて「学習」でしたが、大学では修めるという字を書いて「学修」です。自ら探求し答えを探していくことになります。

修得をするためには、いくつかのステップがあります。

茶道や武術の世界では、「守・破・離」とも言われています。「守」はまず、マニュアル通りにやってみる。「破」では、マニュアル通りではできないところの、創意工夫をする。「離」は、独自の新しいものを生み出します。

学问もまた、

- ① 聞いた（とりあえず授業に出た）
- ② わかった（丸暗記ではなく、理解した）
- ③ やってみた
- ④ 失敗しながらも、なんとかできた
- ⑤ 創意工夫をして、どんな状況でもできるようになった
- ⑥ 説明できる（人に伝えるにはきちんと理解をする必要があります）
- ⑦ 伝える（自らの経験を通して、他の人ができるようにサポートできる）

という、段階を踏んで修得していきます。

こう考えてみてください。遂上がりやスノーボード、お菓子を作る。聞いて、マニュアルを読んだだけで、すぐにできるでしょうか？何度も何度も失敗をして、少しずつコツを掴んで上達してきたはずです。大学では初めて目にすることが目白押しですが、丸暗記ではなく、基本から応用まで、一つ一つ、理解をしていけば修得できるように、きちんとカリキュラムが組まれています。ですから、どんどん新しいことにチャレンジをして、たくさん失敗をしてください。赤ちゃんの時、立って歩くために、何回も何回も転びました。でも、恥ずかしいなんて気持ちを感じることは、ありませんでしたね？私たちが現在使っているたくさんの知識や便利な技術も、多くの先人たちがトライ・アンド・エラーを繰り返して、イメージを現実化・具現化したものです。失敗から学ぶことで、人は前に進めるのです。

みなさんは、入学試験の時のエントリーシートになんと書いたか覚えているでしょうか？面接で志望動機を訊かれた時、なんと答えたか覚えているでしょうか？私たち教員は、その言葉を信じて入学を許可しました。卒業まで、絶対にその気持ちを忘れないでいてください。

学生時代は長いようですが、あっという間に過ぎ去ります。それをどのように生かすかは、みなさん自身の選択にかかっています。みなさんの1分1秒は、あなただけの貴重な時間です。新しいことにチャレンジしても、さぼったとしても、平等に同じ時間が経過します。卒業する頃には、きっと、どれだけ成長したかを実感するでしょう。厳しいですが、そうでないとしても、それは、今この瞬間の自分自身の選択の結果です。残念ながら、皆さんの未来は、ズルをしてショートカットして、飛び越えることはできません。ゲームのように、みなさんが集めるべき人生のアイテムは、手を伸ばせば届くところにちゃんと置いてあります。でも、そのアイテムに気づき、自らの手で取らなくてはならないのだということを、覚えておいてください。目の前の日々の授業や課題に向き合い、一歩ずつ自分の足で歩いて足跡を残した時、その経験の積み重ねが、皆さんの未来を創造します。学生時代の今しかない、この一瞬一瞬を大切にしてください。

すべての答えは、みなさんの中にあります。

みなさんは、そのポテンシャルを持っています。

最後にみなさんには、いくつか学んで欲しいことがあります。

大学という時代は、自分のアイデンティティをきちんと作り上げる時間です。アイデンティティとは、「私はこんな人です」と自信を持って言えること。隣に座っているお友達も「また違ったアイデンティティを持っているんだよ」と認識できることです。だからこそ、お互いを尊重し、お互いに成長することが出来ます。

お互いのアイデンティティを認め合うための方法です。

一つ目は、相手の目を見つめて、笑顔と大きな声で挨拶をすること。これは、相手もまた一個のアイデンティティを持った人間であると認め合うことです。

二つ目は、学ぶことは学問だけではないということ。人は一人だけの世界で生きているのではなく、多くの人との関わりの中で、相手の姿に鏡のように自分自身を映して、客観

視できることで成長しているのだということに気がつくための、大切なチャンスです。
そのためには感性を育ててください。たくさんお話をして、笑って、泣いて、時には喧嘩
をしてもかまいません。感情をため込むのではなく、他人にぶつけるのでもなく、素直に
感じて流すことです。感性を育てるためには、たくさん本を読んでください。ドラマでも
マンガでもなんでもかまいません。感動に震える経験を積み重ねてください。それが感性
を育む糧となります。

その感性が人生の岐路に立った時、きっと、みなさんを正しい選択に導いてくれるはず
です。

短期大学は学生と教員の距離が近いと、言われています。困ったり、悩んだりした時に
は、先生方の研究室を気兼ねなくノックしてください。人生の先輩であり、みなさんの目
指す職業の先輩として、きちんとみなさんをサポートしてくれるはずです。

みなさんが、楽しく、笑顔と喜びに満ち、充実した学生生活を謳歌できることを期待し
ています。

私たち教員は、みなさんを歓迎します。

2025 年 4 月 1 日

山田 隆文